

研究成果の紹介

1 「丹波やまのいも」のコガ(小蛾)について

ねらいと成果

兵庫県の地域特産品である「丹波やまのいも」は、つくねいもの1品種であり、篠山市を中心に栽培されている。

「丹波やまのいも」で初秋に発生する害虫は、ヤマノイモコガといわれている。その被害は、幼虫の食害により起こり、群生すると葉裏から表皮を残して暴食するため、枯死葉が発生する。

しかし、分類学の安田(農環研)は、ジネンジョや栽培種のヤマノイモに寄生するのは、ヤマノイモコガではなく、「ナガイモコガ」であると発表した(植物防疫 54(12)2000など)。

そこで、本県産の栽培ジネンジョや「丹波やまのいも」における寄生種の判別と防除対策等を検討した。

内容

(1) 2004年から2006年にかけて、該当農業普及センターの協力で、朝来市、養父市、宍粟市、篠山市(新市町名で記載)のジネンジョ及び「丹波やまのいも」栽培ほ場から、コガ類の老熟幼虫を採集した。

室内で生餌を与えて飼育し、羽化した♂成虫の交尾器の形状(図)から種名を同定した。

その結果、採集した地点すべてがナガイモコガであり、ヤマノイモコガを見つけることはできなかった。

(2) 2005年朝来市の北部農業技術センターほ場で、9月中旬、合成ピレスロイド系農薬(ヤマノイモコガで既登録の製剤)2剤を用いて防除試験を行った。両薬剤とも効果は優れ、この時期の1回の散布で収穫までの期間、追加防除をせずに発生を抑えることができた。

(3) コナガ(アブラナ科野菜の害虫)やネギコガ(ネギ類の害虫)に近縁であるナガイモコガの発生消長を把握するため、前記2種の発生予察用性フェロモンを用いて、ナガイモコガに対する誘引性を検討した。中央上部に誘引源を置いた水盤トラップを、同センター「丹波やまのいも」栽培ほ場の周辺に設置した。

コナガのフェロモンに誘引されたコガ類の約60%

がナガイモコガであった。一方、ネギコガのフェロモンに誘引されたナガイモコガは、コガ類のおよそ10%であった。このことから、コナガのフェロモンがナガイモコガの発生予察に活用できると考えられる。この結果は、及川ら(青森農総研)のデータとも一致する。

誘引されたコガ類成虫の大部分は、コナガ、ネギコガ、ナガイモコガの3種であった。コナガは、他の2種より大型で、肉眼で区別できるが、ネギコガとナガイモコガは、小型で色彩も類似しており、正確な同定には、交尾器の分解調査が必要である。

フェロモンに誘引されるナガイモコガは、6月中旬から飛来が始まり、9月中旬に最大となり、11月後半まで続く。

普及上の注意事項

「丹波やまのいも」のいも肥大期の食葉性害虫であるナガイモコガの被害は、9月上中旬に一度防除を行えば防げるため、過剰防除にならないよう注意が必要である。

また、現状では、分類学上の昆虫名と農薬登録上の害虫名が一致しないという問題がある。(独)農林水産消費安全技術センター(旧 農薬検査所)の見解は、「今のままでは、現場が困ると考えており、現在、検討中である。」とされ、解決に向けて取り組まれている。

藤富 正昭(農業技セ・病虫害防除部)
(前 北部農技セ・農業部)
(問い合わせ先:0790-47-1222)

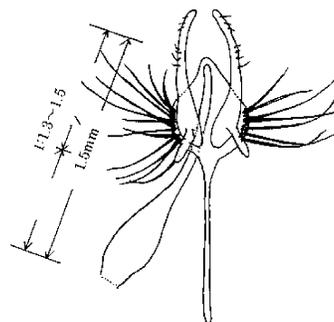


図 ナガイモコガ♂成虫の交尾器